

星にみちびかれと 遠い道を歩き続ける

第20回

ほしのいえ 講演とミニライブ

99%を犠牲にする社会を考える

2013年12月6日(金) 18:30~20:30 (開場18:00)

ムーブ町屋3Fホール (地下鉄千代田線・京成線 町屋駅下車1分)

集会協力券 2000円

講演 和久井みちる

報告 山本英夫

ミニライブ 中川五郎

トーンチャイム

(菅野真子指揮 シルバスタークワイヤー)

主催: 「ほしのいえの集い」 実行委員会

問い合わせ先

「ほしのいえ」TEL/FAX:03-3805-6237(火・木・土 13時~16時)

携帯:090-4396-7446(三上)

振替口座

番号:00170-2-556971 口座名:ほしのいえ

ホームページ <http://hosinoie.net/>

メールアドレス info@hosinoie.net

第20回 ほしのいえ 講演とミニライブ

99%を犠牲にする社会を考える

— 見えなくされている現実を見ることから —

昨年12月の総選挙では、自民党が全有権者の2割の得票で7割の議席を占めました。そして2020年のオリンピック東京開催決定と、経済活動も国際交流も順調に推移するかに見えます。

しかしながら、私たちの周りを見れば、生活保護受給者へのバッシングが続き、その結果餓死者も出ています。非正規労働者は2000万人を超え、自死者は15年振りに3万人を下回ったとはいえ約2万8千人。原発事故による混迷は深く、15万人の人々が今も避難を強いられています。沖縄ではオスプレイが追加配備されようとしています。

素直に現実を見つめれば、今、人間らしく生きようとするかなりのエネルギーが必要だとわかります。異論、多様性が疎まれる雰囲気も強くなりました。

なぜかや単一性ばかりを重んずるようになったのか。現場を、現実をありのままに見なくなったからだ。私たちは考えます。一人ひとりにそれぞれの生活があることが軽んじられてしまっています。

現実を見ることはたやすい事ではありません。自らの生活が問われることにもなります。見たくない現実もあるかも知れません。

でも、国、人種、民族を超えた人々との出会いは、私たちを偏見から解放し、もっと「人間ってすばらしい」の思いを強くするだろうと確信します。

見えなくされている現実、忘れられようとしている現実を見て、考えて、一人ひとりが行動できるようになればとの思いを込めて企画しました。

遠い道を一步一步踏み固めて行きます。

和久井みちる わくいみちる



元生活保護利用者。
高齢、障がいなどの福祉現場で過ごし、その後、地方公務員として勤務経験あり。DV被害によってうつ病を発症後、失職。3年半の間、生活保護を利用していた。2012年「生活保護とあたし」(あげび書房)執筆。生活保護問題対策全国会議幹事。

出演者紹介 Profile

中川五郎 なかがわ ごろう



1949年大阪生まれ。60年代半ばからアメリカのフォーク・ソングの影響を受けて、曲を作ったり歌ったりし始め、68年に「受験生ブルール」や「主婦のブルース」を発表。70年代に入ってから音楽に関する文章や歌詞の対訳などが活動の中心に。90年代に入ってから小説の執筆やチャールズ・ブコウスキーの小説などさまざまな翻訳も行っている。



山本英夫 やまもと ひでお

フォトグラファー(自然写真 報道写真)
1951年東京生まれ世田谷育ち。野鳥観察から自然保護運動に参画。89年から通い始めた沖縄で様々なショックを受けながら、去る10月に沖縄に居を構えたばかり。去る5月に東京で写真展「命(ぬち)どう宝。海よ、森よ、暮らしを」を開催。

2013年12月6日 (金)
18:30~20:30 (開場18:00)

ムーブ町屋3Fホール
(地下鉄千代田線・京成線 町屋駅下車1分)

<http://www.hosinoie.net/>

